

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： **悪性脳腫瘍の新たなバイオマーカー及び分子標的の探索と
それらの臨床応用に向けた多施設共同研究による遺伝子解析**

研究の目的

悪性脳腫瘍は治療抵抗性で予後不良な悪性疾患です。また稀少疾患（10万人に1～2人程度）であるため、1つの県もしくは医療機関の症例数のみでは、原因の解明とその治療法の解決は困難です。そのため国立がん研究センター脳脊髄腫瘍科が中心となり、全国の主な基幹病院と連携し、悪性脳腫瘍患者の様々な検体（手術標本、遺伝子、血液、脳脊髄液など）を集め大規模悪性脳腫瘍の研究を実施します。この研究では様々な種類の脳腫瘍にそれぞれ特徴的な遺伝子変異などを特定することによって、これらの腫瘍の成り立ちを解明し、診断法の向上や治療方法の選択に役立てること、さらには脳腫瘍のモデルを使って新たな分子標的治療薬を開発することを目指します。そのため当院では、この研究の共同研究機関として参加します。

研究実施期間： 2023年 5月 24日 ～ 2030年 3月 31日

対象となる方： 過去当院で手術を受けた悪性脳腫瘍（グリオーマ、悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍、小児悪性脳腫瘍など）の患者さんと今後（2026年3月まで）悪性脳腫瘍にて手術を受ける全ての患者さんを対象とします。

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

使用される検体は弘前大学医学部附属病院にて手術などの治療を実施し、病院に保管されている検体の内、すでに診断や治療に使用された残余検体を使用します。新鮮・凍結手術検体またはパラフィン包埋切片および血液（もしくはそのDNA）・脳脊髄液などを国立がん研究センター中央病院脳脊髄腫瘍科または研究所脳腫瘍連携研究室に送付します。

DNA/RNA、エクソソーム、タンパク質などを抽出して遺伝子・染色体解析および免疫組織化学等を含む臨床病理学的解析を行います。また、年齢、病理診断、KPS、治療、生存期間、画像情報といった、腫瘍マーカーとしての有用性を検証するのに必要な臨床情報を合わせて情報を提出します。そして次世代シーケンス、マイクロアレイなどを駆使して網羅的遺伝子解析をおこないます。一部の解析は東京大学、慶応大学、大阪大学、京都大学、理化学研究所、株式会社エスアールエル、第一三共株式会社、シスメックス株式会社、ライカ・マイクロシステムズ株式会社などの企業を含む共同研究機関でも行われます。ト

ロント小児病院（カナダ）、ドイツがん研究センター（ドイツ）、サーモフィッシュャーサイエンティフィック（米国）、東京女子医科大学、ルードヴィク癌研究所（サンディエゴ、米国）など海外の共同研究機関で解析がされることもあります。

本研究の検体の利用において、氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定されることはありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

なお、本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

試料提供先・研究責任者：〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 脳脊髄腫瘍科 科長

成田善孝

電話 03(3542)2511

本件連絡先	脳神経外科学講座・浅野研一郎 連絡先電話番号：0172-39-5115 / mail: asanoken@hirosaki-u.ac.jp
-------	--